

セカンドステップ

No. 5

発行日：令和6年3月7日

発行：北海道教育庁オホーツク教育局

教育支援課義務教育指導班

小学校第3学年算数

北見市立東相内小学校

単元名：小数（本時は「小数のたし算」12時間扱いの6時間目）

本時の学習

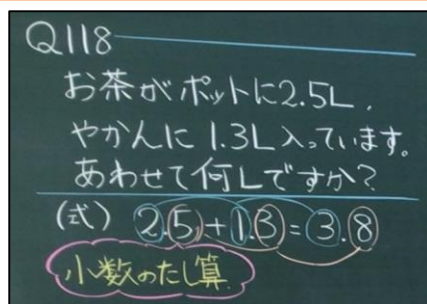
本時は、小数の加法を初めて学習する。児童は、計算結果を求めることができたとしても、「なぜ計算できるのか」という理由を説明できないことが予想される。根拠を基に理由を説明し、計算結果を児童が自ら導き出せるようにするため、整数部分と小数部分の見方や「0.1のいくつ分」の考え方を働かせた数学的活動を位置付け、ICT端末を効果的に活用することにより、「小数の加法も整数の加法と同じように計算できる」など、統合的に考えられるようにすることがねらいである。

<本時の目標>

繰り上がりのない小数のたし算の計算の仕方を説明することができる。（思考力・判断力・表現力等）

<授業の流れ>

- 問題を提示する。（教科書の問題を提示）
「お茶が、ポットに2.5L、やかんに1.3L入っています。あわせて何Lですか？」
- 計算結果を予想させ、自分の立場を明確にさせる。
- 多くの児童が困っていることに着目させ、課題を提示する。
「小数のたし算の仕方を説明しよう。」
- 少し時間をとり、個人思考させる。



友達と話しながら考える

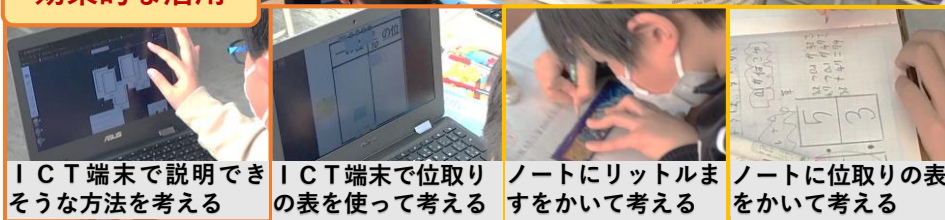
ノートを使って考える

効果的な活用

ICT端末を使って考える

効果的な活用

他者の考えの閲覧ができる場面を設定するために、ノートに考えをかけた児童は、ノートを写真に撮って共有します。



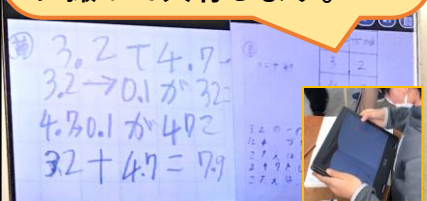
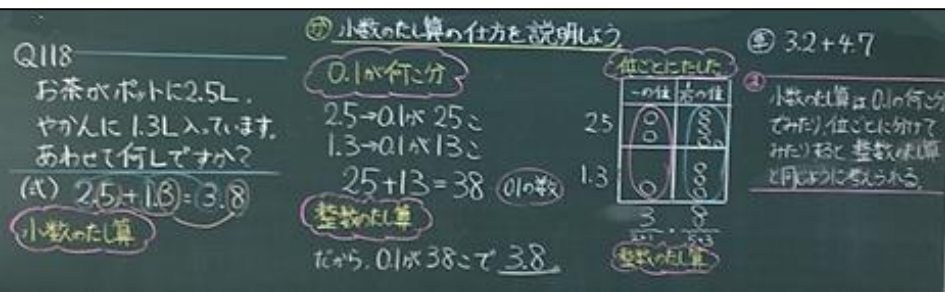
ICT端末で説明できるような方法を考える

ICT端末で位取りの表を使って考える

ノートにリットルマークをかいて考える

ノートに位取りの表をかいて考える

- 多くの児童が考えている方法や本時の目標を達成するために必要な考えを取り上げ、集団解決に向かわせる。



集団解決する際に、比較したり検討したりする場面を設定することが大切です。

算数科では、児童の数学的に考える資質・能力の育成に向け、児童の思考過程を算数・数学の問題発見・解決の過程を踏まえて整理し、児童が自分事の問題をもって自ら問題を発見したり、自立的・協働的に問題を解決したりできるようにすることが大切です。

